

鹿屋

2社と立地協定を締結

～総勢 150 人の雇用創出 地域経済の活性化に期待～



日本モレックス株式会社



株式会社理喜

6月4日、神奈川県に本社を持つ日本モレックス株式会社と鹿屋市の立地協定が締結されました。同社は、電子・電気機械器具の製造工場として平成4年に鹿屋内陸工業団地に鹿児島工場を立地。今回、国内外で需要が高まっているコネクタの増産に対応するため、生産ラインなどを増設するもので、設備投資額は約26億円、約100人の雇用を予定しています。

また、5月30日には、大阪府に本社を持ち、ニット製品の製造・販売会社である株式会社理喜と鹿屋市の立地協定が締結されました。今回、ニット製品の国産製品が見直され需要が高まっていることから、縫製ラインを設置するため鹿屋工場を立地。新たに約50人の雇用を予定しています。

この2社の立地協定により、合わせて150人の雇用が創出され、地域経済の活性化に寄与するものと期待されます。

菜種油を軽油の代替燃料に

～菜種を収穫～



5月27日、鹿屋農業高校実習用水田で、「かのや菜の花エコプロジェクトナタネ収穫祭」が行われました。これは、環境対策として菜種油を燃料にしようと、県トラック協会と同校が協力して行っているもの。当日は、鹿屋小、鹿屋中、鹿屋農高の生徒約250人が参加して菜種約100kgを収穫。菜種油は食用油として利用したあと、軽油の代替燃料として利用されます。

鹿屋 暴力団等排除措置協定を締結



5月28日、鹿屋市と鹿屋警察署が、公共工事等への暴力団員の不当な介入や市営住宅等の入居対象者から暴力団員を排除する2件の協定を締結しました。

山下市長が、「今回の協定締結が市民の安全・安心な生活の確保につながる」とあいさつ。川原鹿屋警察署長は「警察と行政が連携を密にして、安全・安心な鹿屋市にしていきたい」と話しました。

鹿屋 肝属地区の茶が集結



5月21日、JA鹿児島きもつき東部支所で、「肝属地区茶品質向上共進会」が開催されました。

これは、鹿児島茶のブランド化・品質向上などを目指して行われているもの。当日は、普通煎茶、深蒸し茶、^{たましき茶}玉緑茶の部門別に審査を行いました。今年は、2月から3月の冷え込みなど気候の影響が心配されましたが、品質、生産量ともに昨年並みとなる見通しです。

鹿 働「かのやカンパチ」が給食に初登場



5月2日、古江小学校の給食に「かのやカンパチ」のかぶと煮が初めてお目見えし、生徒31人が舌鼓を打ちました。これは、「かのやカンパチ」の消費拡大と食育の一環として、市漁協がカンパチのかぶとを低価格で提供したもので、子どもたちは、「毎日がこんな給食ならいいのに！」と話しながら、身が残りに少なくなったかぶと煮を手に取り、ほおぼっていました。